

縣議選舉後の勿來 後任町長で採めらる

勝ち誇る民派の策動が失敗

收拾策に結局大平氏か

石城郡勿來町では去る縣議選舉にて當時の町長である政友派の赤津庄兵衛氏が退職出

馬鹿菊多郷を地盤とする戦陣に同じ勿來から立候補した

民政派小松章氏との戦ひに於て惜敗した前町長の赤津氏を

再び元の座に推さんとせるに對し同氏の辭意あるものに加へて勝ち誇る町内多數の民政派では吾が黨より其の人を求むべく意圖の下に食指せる小

松新縣議の固き辭退から助役横山太一(民)氏の昇格説もあるが經らず適當の時機を待たう最後の策に赤津氏に表面の

馬の傳染性貧血

豫防検診

性貧血馬第五回の豫防検診は森技手により左記日割で行はれる

十四日上遠野深山田、上遠野、根岸▲十五日同村上下根本瀬▲十六日入遠野上下根本

十八日同村大平▲廿三日瀬渡村上市萱、中寺▲二十四日同村下市萱▲廿五日永戸

八日箕輪村高野(以上)

助役の承認から 議員二名の辭職

上下小川組合村昨日の村會

上小川に補欠選舉の要

役箱伊之次郎氏も年久しい

兩部落の鬭争を見せつけられ

た難を告げてゐたが此の程の

村會で村長に當選したる收入

滋つてゐた折柄村會議場中の

一れども

理屈屋と云はれる柴崎佐之吉

氏と同じ下小川である關係か

ら交渉を整えて右村長の就職

に於て元村長大平陸四郎氏を

推すの外なしと云ふに至つた

らしく同氏は民政派の多い勿

來町同郷の元老であるが片極

華を持たせて半期交代をもの

を勧めたが断然それを拒絕さ

せん術を抱き盛んに同氏

紛糾中であるが蛭田川の改

修その他町務多端の折柄長く

これを許されざるものあり且

つ所記の如き事業を控いて町

議間に疾視反目を醸すことの

なかしめる好策に悩み結局

なからしめる好策に悩み結局

に於て元村長大平陸四郎氏を

推すの外なしと云ふに至つた

らしく同氏は民政派の多い勿

來町同郷の元老であるが片極

華を持たせて半期交代をもの

を勧めたが断然それを拒絶さ

せん術を抱き盛んに同氏

紛糾中であるが蛭田川の改

修その他町務多端の折柄長く

これを許されざるものあり且

つ所記の如き事業を控いて町

議間に疾視反目を醸すことの

なかしめる好策に悩み結局

に於て元村長大平陸四郎氏を

推すの外なしと云ふに至つた

らしく同氏は民政派の多い勿

來町同郷の元老であるが片極

華を持たせて半期交代をもの

を勧めたが断然それを拒絶さ

せん術を抱き盛んに同氏

紛糾中であるが蛭田川の改

修その他町務多端の折柄長く

これを許されざるものあり且

つ所記の如き事業を控いて町

議間に疾視反目を醸すことの

なかしめる好策に悩み結局

に於て元村長大平陸四郎氏を

推すの外なしと云ふに至つた

らしく同氏は民政派の多い勿

來町同郷の元老であるが片極

華を持たせて半期交代をもの

を勧めたが断然それを拒絶さ

せん術を抱き盛んに同氏

紛糾中であるが蛭田川の改

修その他町務多端の折柄長く

これを許されざるものあり且

つ所記の如き事業を控いて町

議間に疾視反目を醸すことの

なかしめる好策に悩み結局

に於て元村長大平陸四郎氏を

推すの外なしと云ふに至つた

らしく同氏は民政派の多い勿

來町同郷の元老であるが片極

華を持たせて半期交代をもの

を勧めたが断然それを拒絶さ

せん術を抱き盛んに同氏

紛糾中であるが蛭田川の改

修その他町務多端の折柄長く

これを許されざるものあり且

つ所記の如き事業を控いて町

議間に疾視反目を醸すことの

なかしめる好策に悩み結局

に於て元村長大平陸四郎氏を

推すの外なしと云ふに至つた

らしく同氏は民政派の多い勿

來町同郷の元老であるが片極

華を持たせて半期交代をもの

を勧めたが断然それを拒絶さ

せん術を抱き盛んに同氏

紛糾中であるが蛭田川の改

修その他町務多端の折柄長く

これを許されざるものあり且

つ所記の如き事業を控いて町

議間に疾視反目を醸すことの

なかしめる好策に悩み結局

に於て元村長大平陸四郎氏を

推すの外なしと云ふに至つた

らしく同氏は民政派の多い勿

來町同郷の元老であるが片極

華を持たせて半期交代をもの

を勧めたが断然それを拒絶さ

せん術を抱き盛んに同氏

紛糾中であるが蛭田川の改

修その他町務多端の折柄長く

これを許されざるものあり且

つ所記の如き事業を控いて町

議間に疾視反目を醸すことの

なかしめる好策に悩み結局

に於て元村長大平陸四郎氏を

推すの外なしと云ふに至つた

らしく同氏は民政派の多い勿

來町同郷の元老であるが片極

華を持たせて半期交代をもの

を勧めたが断然それを拒絶さ

せん術を抱き盛んに同氏

紛糾中であるが蛭田川の改

修その他町務多端の折柄長く

これを許されざるものあり且

つ所記の如き事業を控いて町

議間に疾視反目を醸すことの

なかしめる好策に悩み結局

に於て元村長大平陸四郎氏を

推すの外なしと云ふに至つた

らしく同氏は民政派の多い勿

來町同郷の元老であるが片極

華を持たせて半期交代をもの

を勧めたが断然それを拒絶さ

せん術を抱き盛んに同氏

紛糾中であるが蛭田川の改

修その他町務多端の折柄長く

これを許されざるものあり且

つ所記の如き事業を控いて町

議間に疾視反目を醸すことの

なかしめる好策に悩み結局

に於て元村長大平陸四郎氏を

推すの外なしと云ふに至つた

らしく同氏は民政派の多い勿

來町同郷の元老であるが片極

華を持たせて半期交代をもの

を勧めたが断然それを拒絶さ

せん術を抱き盛んに同氏

紛糾中であるが蛭田川の改

修その他町務多端の折柄長く

これを許されざるものあり且

つ所記の如き事業を控いて町

議間に疾視反目を醸すことの

なかしめる好策に悩み結局

に於て元村長大平陸四郎氏を

推すの外なしと云ふに至つた

らしく同氏は民政派の多い勿

來町同郷の元老であるが片極

